

■いながき昭義の一年間の県議会での活動実績■

◆新型コロナウイルス対策

最大会派新政みえ代表として、知事と共にこの一年間、新型コロナウイルス対策に全力を注ぎました。毎月のように補正予算を組み、感染予防対策、医療体制の強化、経済・生活支援対策を行ってきました。

テレビの報道が不安を煽り続けあまりにもひどいため、「新型コロナを過度に恐れず、過度に侮らず」を基本に冷静に対応することを心掛けています。経済的困窮、失業者増、自殺者増など深刻な問題となっています。特に子ども達の感染リスクは極めて低いことが分かりましたが、学校生活や進学、就職等で多くの制約を受けており、夢や希望を奪われている状況です。一日も早く子ども達の未来を取り戻したいと思ひます。収束に向けて専門的知見を大切に、冷静に日常を取り戻すため取組んでいきます。



◆県民参加予算を提案⇒「みんつく予算」を実現

令和元年6月の代表質問で、県民が予算編成に直接関わる「県民参加予算」を提案しました。令和元年度「みんつく予算」としてその取組が実現し、229件の提案が集まり、令和2年度予算ではその内、6事業5,020万円が全国で初めて県民参加予算として計上されました。今年度は320件の提案が集まっており、県民討議、県民投票を経て令和3年度予算に計上される事業が決まります。

選挙の投票率は下がり、県民の政治への関心が低い中、私は、これからは「参加型」「当事者意識」がキーワードだと思っています。民主主義の新しい形をつくるという強い思いを持ってこの「県民参加予算」を今後全国に広げていきたいと思ひます。

◆県版デジタル庁設置へ

令和2年3月議会の一般質問で、デジタル最高責任者（CDO）を民間から登用して、県のデジタル改革を進めるべきと提案しました。11月本会議で知事は、本年4月からデジタル社会推進局（仮称）を設置し、同局のトップとしてCDOを民間から登用すると表明されました。

今後、デジタル社会の推進に向けて、AI（人工知能）、RPA（ロボティック プロセス オートメーション）などの技術を活用し、県庁の「スマート改革」を更に加速させていきます。

◆夜間中学校開設に向けて奔走中

私は日本に読み書きそろばんが出来ずに大人になっている人が想像以上に多いのではと危機感を持っています。全国の不登校児童生徒数は約18万人（三重県の公立小中学校は平成30年現在2,271人）、日本語指導が必要な外国人児童生徒数は全国で約3万人（三重県は令和元年度現在2,501人）となっており年々増えています。

学び直しの機会を提供する「夜間中学校」や多様な学びの形を提供する「オルタナティブ教育」が本県にも必要であると考え、高知や岡山など先進地を調査してきました。実現できるよう全力を尽くします。

◆令和3年度予算・政策要望を新政みえとして提案

令和2年度は、新政みえとして各団体等からの要望聞き取りを行い、重点項目10本その他要望項目38本の48本を取りまとめ知事に予算・政策要望として提出しました。災害対策や交通安全対策、引きこもり対策などその多くが令和2年度予算に反映されました。

令和3年度予算編成に向けて、重点項目11本、その他要望項目33本の44本を知事に要望しました。引き続きその実現に向けて取組んでいきます。



いながき昭義プロフィール

- 昭和47年** 四日市市東坂部町生まれ（現在48歳）大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業、明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 平成7年～10年** 株式会社三重銀行勤務
- 平成11年** 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点
学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
- 平成15年** 三重県議会議員選挙 初当選以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長（歴代最年少）、予算決算常任委員会委員長（歴代最年少）等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり議員提案条例を制定してきた。
- 平成28年11月** 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテック医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
- 平成31年4月** 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任 現在に至る
- 令和2年3月** 明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 令和2年11月** 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格



Dream21 vol.52

新年ごあいさつ

昨年は新型コロナウイルスの影響で今まで経験をしたことがない一年となりました。皆様におかれましても様々な活動が制約されご苦労の多い一年であったと思ひます。新型コロナとの戦いは今年も続くこととなりますが、一日も早く日常を取り戻せられるよう全力を尽くしたいと思ひます。

個人的には、3月に明治大学大学院を修了することが出来て、また新たな学びとしてワインエキスパート試験に11月に合格することが出来て、私なりの新しい挑戦、自己研鑽を行うことが出来た一年でした。

議会人としては、全国都道府県議会議長会から昨年末に、県議として勤続15年の自治功労者表彰をいただき、大変光栄なことで、これまでご支援、ご指導いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

26歳で銀行を退職し政治の道を志してから21年が経ち、この間の6年は議員ではなく様々な活動をしていた期間となります。これまで戦った選挙は県議選6回、四日市市長選1回、厳しい険しい道のりでした。多くの方にお支えいただき今日の自分がありますが、特に、県議選初挑戦の敗戦から4年間、市長選敗戦からの2年間、この6年間は、県議としての15年間より私にとっては非常に重いものです。本当に苦しい時も支えていただいた方への感謝は生涯忘れることはありません。



今年は新型コロナ後の社会を創る大切な一年になります。私はこの新型コロナで社会の分断が更に進んだと感じ、大きな危機感を持っています。壊れたものを元に戻す努力と、この機会に新しく変えていく挑戦をしっかりと見極め、次の世代のため責任ある政治をやっていく決意です。

本年も変わぬご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。皆様にとりまして幸多き、飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます。

三重県議会議員
新政みえ 代表 稲垣 昭義



《いながき昭義のSNSをぜひご覧ください》

- ◆いながき昭義ホームページ <http://dream-21.jp/>
これまでの活動の歴史や、活動写真、Dream21バックナンバー等ご覧いただけます。
- ◆いながき昭義公式ブログ「初心、継続。」 <https://ameblo.jp/dream-21/>
議会活動報告や時事問題等についての私の考えや主張を書かせていただいています。
- ◆いながき昭義公式ツイッター <https://twitter.com/dream21ai>
新型コロナ情報を中心に毎日発信しています。特に不安を煽り続けるテレビ報道があまりにもひどいため、データや客観的事実を冷静に発信しています。
- ◆いながき昭義公式インスタグラム https://www.instagram.com/akiyoshi_inagaki/
ワインエキスパートとして、ワインと食の発信と、子ども達の成長の記録を残しています。
- ◆いながき昭義公式フェイスブックページ <https://www.facebook.com/akiyoshi.inagaki.mie/>
ブログのリンクを中心に、日々の活動報告を行っています。
- ◆三重ワールドネットTV <https://www.youtube.com/channel/UCV65ckWv5tdxBvOkcEcrAjw>
「坂の上の雲に向かって」という対談番組と「日本の真ん中事業者交流会」というオンラインサロンを行っています。





明治大学大学院ガバナンス研究科教授 源 由理子氏 講演

◆演題：新型コロナ後の社会、企業にとってのSDGsの可能性
～地域社会の持続的発展を目指す～

SDGsは 私たち一人ひとりにとって大切です

SDGs (持続可能な開発目標)とは、2015年、国連にて全会一致で採択された途上国から先進国まで全世界の共通目標 (2030年までの17のゴール169のターゲット) です。地球規模な話だけではなく、自分が暮らす地域の話です。全セクターが対象で、市民一人ひとりが主役ですが、イノベーションを起こすことが出来る民間企業の役割に期待が高まっています。「誰一人取り残さない」がキーワードで、誰でも身体的、精神的、経済的厳しさを抱える可能性のある時代のため誰のためでもなく自分のために重要です。17のターゲットは大きく環境・社会・経済の3領域に分けられますが、環境が土台・基盤であり、その上に社会、その上に経済となっています。

17のターゲットは日本にとって、例えば下記のように 私たちの生活にとって密接に関わっています

- 1 貧困 (赤い旗)
- 2 飢餓 (黄色い旗)
- 4 質の高い教育 (赤い旗)
- 5 ジェンダー平等 (赤い旗)
- 7 脱炭素・脱原発 (黄色い旗)
- 8 働き方改革 (赤い旗)
- 10 外国人労働者 (赤い旗)
- 11 過疎化、消滅自治体 (黄色い旗)
- 12 環境破壊をもたらさない消費と生産 (黄色い旗)
- 13 異常気象、温暖化 (緑の旗)
- 14 プラスチックごみ汚染 (青い旗)
- 15 山林保全 (緑の旗)
- 17 協働・共創 (青い旗)



SDGsが出てきた背景には、「経済活動による社会課題の発生をいかに抑制し、いかに社会・環境配慮を経済合理性につなげるか」「人を中心とした経済主義」といった考えがあります。

社会のエコシステム… いろんな課題はつながっている

人口が減少、地場産業の衰退、公共交通減少、コミュニティーの弱体化、買物難民増加、健康状態悪化、社会保障費の増大、国・自治体の財政悪化、医療・介護環境の悪化、などといった負の連鎖を断ち切り、正の連鎖に変えていく必要があります。

日本では、経団連が2018年にSDGsとSociety5.0を活動の柱に掲げてから一気に広がりました。(因みに三重県は令和2年度からスタートした第三次行動計画の柱にSDGsとSociety5.0を置いています)

新型コロナでSDGsどころじゃないだろうとの声もありますが、新型コロナウィルスの本質はSDGsにあります。例えば、鳥インフルエンザは、湿地の減少によって起こりました。エボラ出血熱は、食糧危機から野生動物を食べたことによって起こりました。感染症ウイルスは環境破壊に起因して出てきたものであり、今後違う形のパンデミックもありうることに私たちは気づき、行動を変えていく必要があります。

新型コロナで、人の移動が無くなった(ロックダウン等)ことで、大気汚染・水質汚染が大幅に改善されました。エネルギーを効率的に使うような製品やサービスを提供・普及させることがいかに大事か、いいものを作り売ることによって利益を生み出す企業が注目されはじめました。ESG投資の増加(ヨーロッパでは3割増)がみられ、財務諸表だけで企業価値を判断せず、環境・社会・ガバナンス(統治)に配慮している企業により多くの投資が集まるようになってきています。

社会における企業価値の創造の時代へ

企業活動で得られた利益を社会に貢献するCSR(社会貢献)に取り組む企業は日本でも増えてきていますが、今後は、本業が社会課題を解決し、経済価値や新しい価値を生むCSV(共通価値の創造)という考え方が重要になってきます。

社会課題の解決は行政の役割と考えられがちですが、社会課題を解決するための技術や製品、サービスを生み出すことが、企業の持続可能性につながります。経済が社会ではない、ゼロサム思考ではなく、そこから新しい価値を生み出す(プラスサム思考)ことが求められています。

※CSV事例1：株式会社伊藤園(グローバル)

バリューチェーンという考え方
茶産地育成事業(生産性向上・IT化)⇒農家を育て(社会的利益)、高品質なお茶を得られるようになる(経済的利益)
お茶は体にいい⇒健康をキーワードとして販売促進

※CSV事例2：ヤマト運輸株式会社(地域)

地域の高齢者の見守り、買い物支援で、全国1501の自治体と連携。日常業務の中で、既に何らかの関係性が地域とある強みを活かし、地域密着で社会的利益を求めます。

※CSV事例3：北九州市魚町銀天街(商店街)

SDGs 商店街になることを決意
アウトサイドイン(外部の視点で見える社会的ニーズをもとに自分たちの事業を見直すこと)という考え方を取り入れ、各店舗はライバルだけど商店街という目線でみたらパートナーということから様々な取組をスタート。

若者が集まっている⇒次の世代に伝わっていく

いながき昭義後援会 第12回 未来創造セミナー

地域における協働・共創の強みと戦略

- ①地域には、経済価値と社会価値をつなげる「関係性」が既にある。(ソーシャルキャピタル・産官学連携・地産地消など)
- ②地域の人には、「地域の課題」を知っている。(現場の暗黙知、経験に裏付けられた直観、主観など)

- ③関係者と共に目指す目標を明らかにする。
バックカスティング(達成したい目標をあらかじめ設定する)という考え方をすることで、それを目指すプロセスで新しい技術が生まれるかもしれない。
- ④多様な主体間の対話を通して継続的な改善、変革を行う。
評価=学習プロセスを通して事業の価値を引き出す行為
今の常識にとらわれない思考=目標達成のためのイノベーション

社会から共感を集めている企業ほど危機に強く、 回復力に優れている

源由理子氏と稲垣昭義の対談!! SDGsを語る

稲垣：
SDGsって世界の話であって、遠くの話と感じている人が多いかもしれませんが、身近な物で、自分事として考えることが重要と感じました。国際社会では、企業の様々な取組の中で、CSR(社会貢献)からCSV(共通価値の創造)へ変わってきているのですか？

源：
私の印象としては、欧米では、CSVという言葉を使わなくても本業で地域課題の解決をやっている企業は多いように思います。
CSRからCSVに変わるのではなく両方必要です。日本型のCSVは利益を上げることも社会貢献の色合いが強く欧米に比べるとCSRの要素が強いと思います。

稲垣：
新型コロナで感じるのは、価値観の共有が重要であると考えますが、逆に価値観の分断や、違う価値観同士の対立といったことが今起こっているようで心配です。
環境・社会・経済の三つを考えた時、環境が土台であるとお話でした。新型コロナで感染症拡大という環境の土台が崩れると社会や経済が簡単に崩れることが分かりました。もう一度土台をどうしていくかということが問われていると感じます。

源：
逆に新型コロナが終わったら元に戻ってしまうかもしれません。それが怖いんです。土台が壊れると社会や経済が壊れるという現在起こっていることを自分事として考えないと、何も変わらないのではないのでしょうか。

稲垣：
確かに、のど元過ぎればはいけません。新型コロナは、社会や経済の土台を大きく変えていく、作り直すチャンスにしていかなければいけません。
三重県は7月に国の「SDGs未来都市」に選ばれました。2050年に排出炭素をゼロにする、脱炭素宣言を行い、その目標に向かって産官学連携でプラットフォームをつくりまします。若者や大学生に積極的に関わってもらうことになりまします。他の未来都市の事例も含めて今後進めていく中でアドバイスをお願いします。

源：
2050年の目指す姿を決めてバックカスティングで考えると、この間に新しい技術が生まれたり、別の課題が出てきたりします。そのプロセスが重要で、関係者が丁寧に対話していくことが重要です。途中での変化を許容するような運営をすることが重要です。

稲垣：
評価の仕組みをちゃんと作っていく必要があるんですね。

源：
段階的に指標を評価していくことも大事ですが、そのプロセスの対話が重要です。対話は難しいですが、異なる価値観、異なる知見の人たちが集まって議論するから新しいものが生まれます。そんな評価の仕組みが必要です。

稲垣：
三重県は、SDGs未来都市として新型コロナ後、動き始めますので、評価の専門家として、今後ご指導よろしくお願ひします。
もう一点は、地域の強みは関係性であるとのことでした。新型コロナで、テレワーク等働き方改革などが進み、東京から地方へといった人の流れが出来ると感じますが、都会から地方に来た人が強い関係性の中に入りにくいのではと心配します。今後地方の強みをどう活かすことが出来ますか？

源：
ソーシャルキャピタル(社会関係資本)はプラスもありますが、外のものを排除する力になるといったマイナス面もあります。橋渡し型が重要で、外から人が入ることによって新しい気づきがあること、お互いに認め合うような仕掛けが必要で、行政の役割かもしれません。

稲垣：
アウトサイドインといったお話もありましたが、東京から人材を地方に呼び込むためには、企業も外部の視点を大切にする経営が求められるのかもしれない。
17のゴールに向かってこれから10年あります。この10年で私たちは何が出来るのか？日本では人口減少、コミュニティーの弱体化が最大の課題であると感じています。
私は先生にご指導いただき修士論文で「SDGsにおける都道府県の役割」について書きました。地方を持続可能にするためにはSDGsの取組に大きな可能性を感じています。今後、自分なりに実践して参ります。

源：
SDGsは多様な主体の関りが重要ですが、企業の役割は非常に大きいです。また現場でお手伝いできることがあればよろしくお願ひします。

